

「天に宝を積む」

ルカによる福音書 12章 15～21節

聖学院大学 政治経済学科教授 村上 公久

ルカ 12:15～21 「愚かな農夫」

12:20 しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。

ヨハネの黙示録 21: 18～21 「黄金と宝玉で満ちた天の都」

21:21 十二の門は十二の真珠であり、門はそれぞれ一つの真珠で造られ、都の大通りは、すきとおったガラスのような純金であった。(口語訳)

狩猟・採集での暮らしや遊牧の生活には、土地に対する執着はありません。草を求めて移動する定住ではない民は土地の所有を求めません。牧畜さらに定住の農耕が始まると豊かな土地の「所有」の有無が貧富の差となって行きました。

農耕の開始と共に余剰の富・富の蓄積が生じ、貧富の差(格差社会の始)や王・神官などの階級が出来ました。農耕以前には集団間の武力闘争は無かったのですが、肥沃な土地を求め始めると土地(領土)争いの大規模な戦闘が始まりました。人類史で「戦争」をもたらしたものは農耕の開始です。

ルカ 12:15～21 の「愚かな農夫」の話は、単に貪欲を避けるようにとの日常の暮らしの戒めに留まらない、世界平和についての教えでもあります。

以下は「自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない愚者」の寓話です。

ある金持ちのクリスチャンが死んで天国に入ることが許されました。彼は自分の財の中でも極上の金銀宝石を旅行鞆に詰め込んで最後の旅に出ました。重い鞆を引きずりながら天国の門まで来ると、入り口にペテロがいて「その鞆を捨てて入りなさい」と言いました。彼はそれらの富を蓄えるために多くの苦勞をして来たと訴えて、鞆を持ったまま天国に入ろうとしました。ペテロは「そこまで言うのなら構いませんが、…ここから先は、そのようなものは道路の舗装材ですよ」と戒めました。

ルカ 12:21 「自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

I テモテ 6:7 わたしたちは何も持たずに世に生まれ、世を去るときは何も持って行くことができない。

「自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者」にならないように、祈り努めましょう。

2016年6月17日 聖学院大学 全学礼拝